

駒ヶ根市文化財

名称	小鍛冶古墳群
種別	史跡
指定	市・史跡(昭和 45. 4.24)
所在地	下平上の原
所有者	駒ヶ根市 外
説明	<p>赤穂美女ヶ森の東天竜川の段丘上は、かつて小鍛冶上の原と呼ばれ、その一部は現在上の原工業団地となっている。以前は桑園を中心とした畑作地帯であった。この付近は天竜川の氾濫原から上に4段の段丘面があり、下から3番目に当たる。北側の宮沢川、南側の小鍛冶沢(七面川)によって開析されている。段丘下にはこの古墳群の名称になった小鍛冶集落があり、その比高差は約40mほどである。</p> <p>『先史及原始時代の上伊那』(鳥居隆龍蔵 著 大正15年3月 信濃教育會上伊那部會発行)の調査で、10基(内2基は消滅)の古墳があったことが記されているが、現在遺るものは4基のみである。</p> <p>上の原工業団地造成時の発掘調査によって、大正15年(1926)以降の開墾により消滅したものを含め古墳6基の原位置を確認することができ、10基の古墳の存在したことが明確となった。</p> <p>消滅した古墳の周溝内などから発見された土器によると、古墳群のうち、最も古いものは5世紀末には築造されたことが分かった。これは上伊那の中でも古い時代の古墳にあたるものである。発見された遺物は、土師器(はじき)の高坏(たかつき)須恵器のはそうなどとともに、直刀(ちよくとう)・大刀(たち)・馬具が出土している。</p> <p>また、この一画からは、旧石器時代末の「神子柴型石器」が発見されており、詳細な調査を実施したが新たな発見はなかった。</p>



小鍛冶第7号古墳墳丘全景(西より)